



第 83 卷 第 3 号  
 年 4 回 発 行  
 社会福祉法人 慈生会  
 〒165-0022  
 東京都中野区江古田 3-15-2  
 TEL 03-3387-5567  
<http://www.jiseikai.jp>  
 振替口座 ベタニアの家  
 00170-6-15317

互いに愛し合いなさい(ヨハネ 15:12)

―「教え」を実践に―

西山 悦子

昨年度末、聖ヨゼフ老人ホームは清瀬市による当施設の介護職員からの聞き取り調査の結果、「危ない、止まって」「立たないで」「動かないで」等、利用者に対する強い言葉での言葉かけが日常的にあることについて、「高齢者虐待防止法に規定する心理的虐待」と認定されました。そして当施設での高齢者虐待の背景要因(組織経営、職場風土、倫理観とコンプライアンス、チームアプローチ、ケアの質の課題)を明らかにして、善処するようにとの指導が入りました。これらの指示を受け、私は前施設長から介護部門の虐待防止の取り組みを仰せつかりました。私はまずは組織風土の改善の方法を探っていくことを基にして、その方略を

考えていきました。

組織風土の改善について考えるにあたり、忘れられないエピソードがあります。上智大学看護学科に勤務していた時のことです。仕事を終え、自宅近くのコンビニに入ろうとしたところ、買い物を終えた教え子が出てきました。私の顔を見ると同時に「先生！ 病院辞めたい！」と叫びました。近くの病院に勤務して一年目の卒業生でした。話を聴いたところ、身勝手な先輩がいる、従わないと仕返しをされるので誰も注意をしない、私はその先輩に従わなかったので、悪口を言いふらされている、話しかけても無視をされる、それらのことを師長に言っても「言葉はきついで悪い人ではないのよ」「気にしすぎよ」と卒業生の話をゆくり聞くこともなく取り合ってくれない、病棟に行くのが怖い、という

切実な訴えでした。先輩看護師の無礼、無作法、敬意を欠いた非礼な言動は「インシビリティ」と呼ばれており、新卒看護師はインシビリティに対してとりわけ脆弱な存在と言われております。卒業生のように、「インシビリティを目撃した新人は退職意思が高まる」ことは周知のとおりです。

近年、看護師や介護職員などが働く病院や老人福祉施設では、健康な職場環境、すなわち安全で支援が受けられ、協力的で、尊重され、おもいやりのある環境を構築するには礼節(シビリティ)が不可欠であることが指摘されております。礼節とは、人々が社会生活を円滑に進めるために必要な行動や態度です。具体的に、他人に対する敬意、丁寧な言葉遣い、公共の場での適切な行動のことで、形ではなく「心から相手に敬意を表す」ことです。礼節とは、「互いに愛し合いなさい(ヨハネ 15:12)」―お互いをリスペクトすること―を実践することに他なりません。

私は「同僚支援の土壌を作り、職場風土の改善、チームワークの強化

に努めること」を目標に、グループワークを企画実施いたしました。方法は礼節の基本の1つである「傾聴」の技術を学び体験をすることです。10分間のレクチャー(傾聴のポイント、傾聴の次元、傾聴の態度、傾聴の技術)の後、グループワーク(1グループ4〜5人)を行いました。傾聴は自分自身を傾聴する(自分自身を知る)ことから始まります。自分の人生(My Way)を語り、他者の人生を傾聴し、それぞれの時の気持ち等を分かち合いました。

私は今後も、以下の感想を述べてくれた介護職員らと共に、職場風土の改善に努めていきたいと思っています。「グループワークを通して、まずはこのような機会を作っていただけ感謝しています。心が少し軽くなった感じがします。皆さんの話を聴けて、また自分の話の聞いてもらい、知ってもらったことで、今後の仕事がいやしくなりましたし、安心感を持ってきてよかったです」と再認識できました。」

(聖ヨゼフ老人ホーム 施設長)

マ・メゾン光星60周年  
に際して思うこと

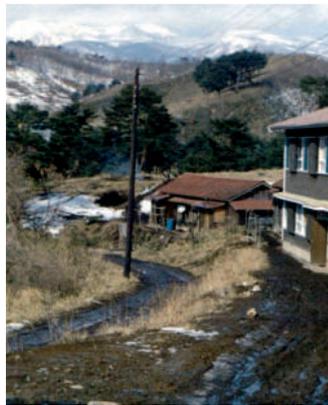
藤田 文子

私が今振り返って思うことは、就職してあっという間に55年を迎えてしまったことです。学生時代に保育士資格取得のための施設実習で、マ・メゾン光星(当時は児童施設光星学園)に来たのがきっかけでした。重い足を引かずって渋々来たのに、まさか就職することになるとは、自分でも不思議に思うことばかりです。当時高校時代に【奇跡の人】というヘレンケラーの映画を観たのもかなり影響を受けていますし、専門学院の卒論で、ペスタロッチの教育論に取り組み、カトリックの熱烈な信者の方が直向きな方法で全人教育に取り組んでいた姿に大いに影響を受けたことも事実です。まだ日本は高度経済成長を迎える前で、車に乗る方は数名で、園にも軽自動車とトラックとプリンスの計3台、男子職員はバイクで通勤していました。女子職員は職員寮に住む込みが条件でした。今こそ町道に昇格しましたが、ゴルフ場ができたことを契機に舗装道路となり、慈生会の私道の時は、小石で、ドアや車の底に傷がつき、傷みが酷く、錆び付いて長持ちしなかったり、雨の時泥濘の深い穴にタイヤが入り抜け出すことができず、トラクタの荷台から人を下ろし、後ろに回っ

て数名で押したりと苦労が多かったことが浮かんできます。白河に行く時には、園から夕狩のバス停までの4kmの道を往復歩いて買い物や白河の南湖公園のお花見を楽しんだりしたことも懐かしく思い出されます。



1962年 布団ほし



1970年 女子職員寮

高度経済成長期になると車社会の到来です。女子職員も車の免許を取り、車を購入して休日や勤務外の時は買い物やドライブ、外出など行動範囲も広がり余暇の時間は楽しくなりました。オンとオフの時間を持つことができるようになったことは、精神衛生にも良い影響があり、利用者との関係性もより良いものになりました。園でも6人乗りのプリンスのほかに10人乗りのワゴン車1台、5人乗りの車1台が増え、通院や外出の時に利用していました。建物自体、鉄筋コンクリートながらも中は木造

建築なので、隙間風が入り、冬は零下3度と厳しい寒さとの戦いでした。春になると草木が芽吹き花も咲いて目に鮮やかな新緑の季節を迎えます。春・秋の七草も当時は咲いていました。春・秋の七草も当時は咲いては、

人の往来も増えて自然と草花も姿を消していきました。それでも春夏秋冬四季折々の草花を愛でることができ、那須野ヶ原の豊かな自然環境があり、精神も癒されました。私が長続きしたのも、利用者や職員の関係性、自然環境の豊かさ、利用者の皆さんの本音でぶつかり、偽りのない素直な気持ちで支援員と向き合ってくれる姿があったおかげです。【教育は共育である】と言われるゆえんですね！知的障害者の支援員は、【呑気 根気 元気の3気が必要である】とも当時教えられました。

55年間私は、逆に利用者の皆さんに育てられ、どうしたら彼らとのラポート(信頼関係)を上手築くことができるだろうかの自問自答の繰り返しで今日に至ります。利用者の平均年齢が40歳を過ぎ、高齢化を迎え、生活習慣病検診で、高血圧、心臓病、白内障、認知症等々で定期通院、入院、与薬も増加し、年を追って健康面の支援に重点が移行してきました。2011年の東日本大震災の後、原木の椎茸づくりも、放射能汚染の影響を受けて栽培不可能となり、現在の主な外作業は野菜作りや栗、ブルーベリー、梅等の果樹、養鶏、クッキー作り等が、メインとなってきました。



手織り風景

外作業の困難な利用者も年々増加し、室内作業、絵画、陶芸、太鼓教室、手織り等の療法活動も行っています。その中で、私は平成22年から手織りの専任として毎週火、水、木のAM9時〜11時30分手織りを実施しています。認知症の方、パーキンソン病の方、高齢の方、車椅子の方等、一人一人時間一杯各人のペースで懸命に取り組む姿に魅了されます。前任者から引き受け担当してから、もう足掛け15年目を迎えますが、年々利用者も腕を上げ、素敵な作品を織り上げております。



手織り作品

(マ・メゾン光星 生活支援員)

「引越しました！」

アバネス 佳織

紫陽花の色が美しく映える季節となり、すでに夏の暑さも感じられる季節となりましたが皆様どうお過ごしでしょうか。平成4年から事業を開始しております中野北ベタニア訪問看護ステーションがこの度、ベタニアホーム1階の建物に移転いたしました。地域医療、介護を支える一員として活動してまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。



皆様はACPという言葉をご存じでしょうか。Advance Care Planningの略語で「人生会議」と言われるもので本人、家族、医療・介護従事者間で残された人生をどのように生きていきたいか、またはどのように最期を迎えたいか等を前もって話し

合うことを指します。訪問看護では本人、家族の意向を尊重し、支えていくために病状を診るだけではなく本人、家族の話を傾聴し療養生活上の不安を軽減できるように関わっております。

病院でこんなことを言われたが具体的にどうすればよいのかわからない、受診日はまだ先だが症状が気になる、こんなこと先生に言えない、どう言ったらいいかわからない等様々な心配を抱えながら生活されている方がたくさんおられます。そんな時に訪問看護師に相談してみようと訪問日を心待ちにして下さっている方がたくさんおられます。



やアドバイス、医師・ケアマネージャーへの連絡、相談、受診のタイミング、緊急時対応など病状観察以外にも役割は多岐に渡り、大変やり甲斐のある仕事をさせていただいております。今後とも使命感を持って活動してまいりますのでよろしくお願いたします。

(中野北ベタニア 訪問看護ステーション 所長)

令和5年度決算報告

法人全体の貸借対照表の要旨 (令和6年3月31日現在) 単位:千円

Table with 4 columns: 資産の部 (流動資産, 固定資産, 基本財産, その他の固定資産), 負債・純資産の部 (流動負債, 固定負債, 負債合計, 基本金, 国庫補助金特別積立金, その他の積立金, 次期繰越活動収支差額, 純資産合計), 資産の部合計, 負債・純資産の部合計.

社会福祉法人 慈生会 令和5年度 決算報告 6月4日の理事会および6月20日の評議員会で、令和5年度の決算が承認されましたので、その要旨を報告いたします。

事業活動計算書の要旨 (令和5年4月1日~令和6年3月31日) 単位:千円

Table with 4 columns: 事業区分 (社会福祉事業区分, 公益事業区分, 収益事業区分), 収入, 支出, 差額.

資金収支計算書の要旨 (令和5年4月1日~令和6年3月31日) 単位:千円

Table with 4 columns: 事業区分 (社会福祉事業区分, 公益事業区分, 収益事業区分), 収入, 支出, 差額.

財産目録の要旨 (令和6年3月31日現在) 単位:千円

Table with 2 columns: 区分 (資産の部: 基本財産土地, 基本財産建物, 負債の部, 差引純資産), 金額.



今回は、実際に行ったマテリアルリサイクルの具体的な取り組みを紹介いたします。

まず子どもたちは、プレシヤスプラスチックというオランダのオープンソースプロジェクトを参考に、ペトボトルキャップをプラスチック材料として製品化するために何が必要かを調べました。技術的な面や時間の制約といった関係で、今回は本格的なワークスペースをつくることはできなかったのですが、下手に加工をすることで逆にマイクロプラスチックを生み出しやすくなることなど、調査により多くの気づきを得ました。

その中で、形状的に初心者でも作りやすそうで、耐久性が素材的にも意味をもつ「コースター」に目を付けました。コースターであれば屋内で使うものなので紫外線劣化の影響を受けにくく(プラスチックの劣化が進むと、メタンやエチレンなどの強力な温室効果ガスが放出されること)が分かったとする論文が2018年に発表されています(用途的にもマイクロプラスチックになりなく

いと考えることです。さらに板状に成型することで、今後別のものに改めてリサイクルしようという場面でも素材として扱いやすくなります。実際の様子は写真のような感じで、地味な作業や力が必要になる場面も多かったのですが、多くのメディア

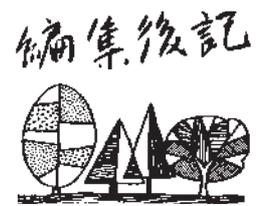


では明らかにされていないプラスチックに関する本当の情報に触れ、古い人を脱ぎ捨て、新しい人を身に付けたかのように感じた子どもたちは、率先して環境のために「価値のないもの」と捉えられているものを生まれ変わらせる作業に取り組み、新たな価値をつくり出すことに大きな意義を感じたようです。

さらにこのようにして作られたリサイクルコースターを東星バザーという場でSDGsの考えに賛同いただけただけで、有償ではありませんが直接お渡しすることができたことは、生徒たちにとってもとても良い経験になりました。

次回も東星学園の取り組みと価値のある情報を合わせて発信していきたいと思えます。

(記・科学部顧問 中尾)



ケアハウス「慈しみの家」では、

今年度、地域交流の一環として、中野区立第七中学校ボランティア部の生徒さんと共同で貼り絵(模造紙サイズ)の作成を行うことになり、5月24日から開始しました。月1回ペースで一時間程度。初回は、生徒さん4名、入居者の方5名が参加され、最初は緊張気味でしたが、すぐに打ち解け、和気あいあいとした雰囲気の中、作品作りに取り組みました。いづれ完成品を紹介いたします。お楽しみにしてください。

(中村 英男)

新年度に入る、4月1日に例年ベトレム学園では、全児童、全職員が集まり、年度の全体目標を共有していくことにしています。今年度の目標は「人・物を大切にしよう(SDGsの)」「あいさつをしよう」の二点です。相手の事を思いやる気持ちや物を大切にすることを。最近、子どもたちからも聞くSDGsのも取り入れてみました。ここ数年変わ

らない目標になってはいますが、みんなが毎年、意識して取り組んでいます。

(関 広宣)

今回の60周年を迎えたマ・メゾン光星の記事を読んでいると、当時の那須の生活の風景が目には浮かんできます。舗装されていない道、ご利用者と共に生活しつつ、様々な制度や環境の変化に合わせ重ねてきた年月。60周年の節目の年を、施設の一人として迎えている実感が湧いてきます。これから私たちが過ごしていく中で、先輩の教えてくださった吞気・根気・元気の3気を日々忘れないように過ごしていきたいと思えます。

(杉山 智和)

徳田教会の一角に両手を大きく広げ、誰一人残さずすべての人を神の愛に招く象りの「イエスのみ心」のご像があります。カトリック教会では六月「イエスのみ心」の信心月でした。「み心の慈しみをこの事業を通して周りの人に伝える、生まれさせること」(創立者の日記より)を事業の目的とし、その精神を受け継ぎ、困っている人、孤独な人を助けるために身をもって汗しながら心を砕いて働いておられる職員の方と共にシスターズも祈り人となって働ける今に感謝です。

(Sr中野 利恵)